

すとうかずおみからの最後のお願い

3月26日の告示以来、今日まで、沢山の激励を頂きました事に、心より感謝御礼申し上げます。
明日の投票を迎えるにあたり、総決起大会でも述べましたが、今一度、私のまちづくりへの思いを述べさせて頂きたいと思えます。

今から400年以上前のことです。
館林は、初代城主赤井照光公によって、まちづくりが行われました。当時は、そこに方位学や占星術を用いました。
夜空を館林の街に写し取る方法でした。

北極星は、千代田町の光恩寺。(照光公のお墓があるところ)
そして、近隣の館林の七つの寺社仏閣が、それぞれ北斗七星の星の役目を持つよう、建立、配置されました。
北斗七星の形は、竜の形をしています。
その竜に様々な魔(人災、天災)から守ってもらえるように、館林城は竜の背中の位置に、建設したのです。
これが、戦国時代の安心安全のまちづくりでした。

また、農村づくりにおいては、土木技術者の大谷休泊が抜擢されました。
休泊翁は、当時風害の多かった館林を守るために、松による防風林を植えました。
更に、多々良沼や渡良瀬川から灌漑用の水路も引いたのです。
400年以上たった今も、それらすべての恩恵に私たちは、変わらず浴しております。

つまり、政治とは今を生きる人と未来を生きる人々のものなのです。
「1期4年」という、個人のものでは、決してありません。

私は安楽岡市長さんの志を継ぎたいと願っています。
その志とは何なのか、それは私心のない政治です。
没後、100年たった今も、この地には、田中正造翁の精神が生きています。

これまでも、色々な場所で、私の 24 の政策カルタをご覧頂きました。
そこでもお話ししました通り、私の政策の母体となるものは、
「災害時に危機対応能力の高いまちを目指す」という事です。
それは、人々の命を守るという安心、安全があってこそ、平和な暮らしや幸せな
暮らしが成り立ち得るからであります。

また一方で、私は政策のキャッチコピーとして、「人を活かし育てるまちづくり」と
掲げています。

一つとして、個性を伸ばす教育からも、これを訴えています。
東京大学で試みている異才発掘プロジェクト ロケットという事業を初の
自治体連携で、館林市で取り組んでみたいと考えています。

一億総活躍社会と国は言います。

例え、どんな個性があっても、だれも排除されない社会を、この館林市で実現
させたいのです。

今や選挙戦は終了し、明日の投票日を待つだけとなりました。

皆様の熱い一票をどうか、この、すとうかずおみ に投じて頂けますよう、
心からお願い申し上げます、最後のお願いとさせていただきます。
どうぞ宜しくお願い致します。

すとうかずおみ